京城日報　朝刊

宿敵、米英撃滅へ 十億の陣頭に立つ

東條首相決意を披瀝

【東京電話】六日の衆議院本會議は勝頭戰力增强決議を滿場一致可決したが、東條首相は是に對し左の如き發言を行ひ、國民の盛り上る力に期待し、凡ゆる手段を講じて戰力增强に邁進する決意を披瀝した

今や大東亞戰爭は、決戰に次ぐ決戰をもつてする深刻なる機相を呈し、さきに本議場において申述べたる通り、今年こそは世界戰局上極めて重大なる年である、この秋に當り政府はこの上ともよく御趣旨の存するところを體し、あくまで國民の盛り上る力に期待するとゝもに、あらゆる手段を講じ特に今回御協贊を頂いた戰時行政特例法などの彈力ある運用によつて、この上とも大東亞全域にわたる豐饒なる重要軍需資源をあげて戰力增强の一點に全幅活用せんことを期する所存である、かくして帝國は官民一途宿敵米英の擊滅を目指して大東亞十億の勤勉なる民衆の陣頭に立ち、相共に新しき大東亞の建設に邁進し正義に基く世界新秩序の確立に貢獻せんことを期する次第である こゝに本決議御趣旨の存するところに對し同感の意を表するとゝもに改めて政府の所信を披瀝し併せて國民諸君の熱烈なる御協力を切望する次第である【寫眞＝東條首相】

必勝體制確立

戰力增强決議案可決

【東京電話】衆議院は六日午後一時の本會議に戰力增强に關する左の如き決議案を上程、小泉又次郎氏起つて提案理由を說明し滿場一致これを可決、これに對し東條首相より院議を尊重し、自ら陣頭指揮に立ち八十一議會において協贊を得たる豫算、法律の重點的實施により決戰下第二年、今日の戰力增强に挺身し誓米英を擊滅するの決意と用意ある旨を闡明し、議場を通じ鐵石不動の戰力增强必成を中外に宣揚した

戰力增强に關する決議

大義を八紘に宣揚し米英を膺滅して世界の新秩序を創建するは皇國の歷史的使命なり、之がためには眞に擧國一體、官民一致國家の總力を擧げて戰力增强に集中しもつて必勝不敗の體制を確立せざるべからず、須く政府は皇國の大理想の下いよく雄渾なる國民的氣魄と敵米英を破摧せずんば已まざる熾烈なる士氣の昂揚に努むるとともに自ら綱紀を伸張し、東條翼贊の弊を去り、弘く人材を登用し國民の創意熱情を旺にし、もつて生産擴充の障碍たる凡ゆる原因は斷乎これを除去して速に戰力の飛躍的增强を期すべし

右決議す

議會傍聽の產業戰士一行（（電送））

供出せよ造船用材

半島の木船建造は自給が原則

江口本府總務局長談

海上輸送力の充實は戰力增强上不可缺の條件として、朝鮮でも十八年度に於ては木船造船計畫の擴充遂行に邁進することとしてゐるが總督府ではこれが建造に必要なる船用材も、極力自給自足の方針を執ることとし、先ごろ造船用材供出促進要綱を決定、官民有林を問はず造船材の伐採供出につき官民の協力を要請することとしたが、六日之が促進方につき左の如き總務局長談を發表すると同時に各道知事宛全趣旨の政務總監通牒を發した

海上輸送力 の充實は戰力增强上絕對不可缺の要素であると共に廣漠たる大東亞海に亘り皇化を均霑せしむる上より見るも船腹の增强こそは當面の緊務であるが、現下銃後の生產戰に於ても亦船腹增强なくては鐵鋼、輕金屬初め時局下緊要なる物資の增產は圓滑に行はれず、軍需品の補給に支障を生ずる結果となるのである、之がため國を擧げて造船の遂行に全力を傾ける必要を痛感せられる、類つて造船は時局下（建造がその中核であるが）資材、造船、設備等の關係上鋼船の增强のみに賴ることは出來ないのであつて、應急對策として比較的簡易迅速に製作し、直ちに効果を發揮し得る木造の急造が亦極めて喫緊なのであつて、中央政府に於ては過日木造建造緊急方策を決定し大擴充を實施することゝなつたのである

朝鮮に於て も本年度當初より木船造船計畫を樹立し、目下着々實施中で今後益々之が擴充に進む方針である、此處に於てか木船主要建造資材である木材の確保が問題となるのである、元來朝鮮に於ては造船用材は從來殆ど之を優良材の豐富なる內地よりの移入に仰いで來たのであるが、內地でも今回の木船の大擴充に伴ひ需要は激增し、從つて朝鮮に於て內地依存の態度を脫却するの必要に迫らるゝと共に朝鮮材も充分造船用材たり得る確證を得たのでこの際朝鮮にて製造する木船の所要木材は原則として鮮內より供出することと相成つた次第である、內地に於ても木船の擴充計畫と併行して先頃木材の生產增强方策を樹立し又組織的な供木運動を展開してをり既に之に應へて由緖ある寺院の古木等をも伐採する等熱烈なる供出が行はれつゝあるのである、朝鮮においても今回造船用材供出促進要綱を決定

直ちに實施 することゝなつたのであつて上述の趣旨に鑑み官民一體之が完遂に邁進しなければならないのである、從來造船用材の如き木材を鮮內で伐採したことは少い樣であるがこの際多少の無理はあつても思ひ切つた態度を以て臨み官民有林の別なく或は寺院の境內林、屋敷林、並木等であつても苟も造船材に適する以上どしく供出して千載一遇のこの決戰の御役に立たせて然るべしと信ずる、供出に就ては勞力、資材、輸送力等の困難な事情も伴ふことと豫想されるが了供出者は固より關係の向も皆眞劍なる熱意を以て之に協力し此等の困難を克服して以て海上輸送力を少しでも擴充して戰力の增强に又生產擴充に當面の國家目的に寄與せらるゝことを切望する

敵屍二千餘

河南省の戰果

【開封六日同盟】河南省〇〇部隊の二月中の主なる戰果左の如し

交戰回數一五〇、交戰敵兵力五九、八一〇、敵遺棄死體二、〇九〇、捕虜四七三

"全能力を盡さん"

傍聽の產業戰士感激

【東京電話】衆議院は六日午後二時から開いた本會議で『擊ちてしやまむ』の一億の決意を結集した『戰力增强に關する決議案』が滿場一致で可決したが、この日傍聽席には產業戰士の一行十六名が烈火を吐く小泉又次郎氏の提案理由とこれに答へた東條首相の『官民一致敵米英の擊摧を目指して大東亞十億の陣頭に立つて邁進せん』との決意の言葉を傾聽してゐた、一行は石川島造船所、中島飛行機、三菱重工業、東京芝浦電氣、日立製作所、日立製作所の八工場勞務、職員から一名づゝ選ばれた人々で、一意日夜挺身してゐる〇の選ばれて戰時議會を傍聽へ、增產戰士に傚へ、午後七時から放送に努力を築つた石川島造船所勞務主任安齋満(三七)と日立製作所に勤續廿年の模範職工見上直吉(三七)の二人の感想を聽く

安齋君の談 戰力增强の決議が一億國民の燃ゆる熱意を結集して白堊の殿堂で嚴肅裡に滿場一致で可決された感激の瞬間を眼の當りに見て感激に堪へません、東條首相はこれに對して熱意ある政府の決意を示して國民の奮起を要望され特にわれわれ產業人は責任の重大さを痛感『擊ちてしやまむ』の決意を新たに固め私共は敵米英を擊滅まづ決議案を朗讀すれば職場はする船、大東亞を築く船を建造增强し造船報國の決意を固めた次第です

見上君の談 議會傍聽は初めてのことですが、これまで工場長から度々きかされた生產に全能力を盡せとの言葉を一層强く感じました、職場に歸つたらこの感激を同僚にも語りさらに努力してわれく產業戰士の責務を果したいと考へます

衆院本會議

【東京電話】六日の衆議院本會議は午後一時二分開會、劈頭戰力增强に關する決議案を上程、これが說明のため小泉又次郎氏登壇、決議案を朗讀すれば職場は擴尾の緊張示して拍手暫し鳴りもやまず、本會議に相應しい超滿員の傍聽席にも一億國民總力をあげて戰力增强を達成せんとする決意が盛りあがる、かくて約十五分に亘る趣旨說明を終つて總員起立同決議案を可決、こゝに大東亞戰爭完遂への軍官民一體の戰力增强體制は遺憾なく發揮された、これに對し東條首相より謝意を表明するとともに戰爭完遂への決意と所信とを重ねて闡明し、同二十五分休憩、午後六時十九分再開、直ちに散會した

天降り人事に愼重

敬老精神を尊重せよ

東條首相答辯

何との質問に對し東條首相は左の如く答辯した（速記要旨）

一、官廳に職を奉じてゐるといふ理由をもつて優先的に自治體、特殊會社または統制會などの重要地位につくことは適當でないと考へてゐる、この點についてはは充分注意して參る、なほこの趣旨をもつて最近政府は從來各省大臣の裁量において任命してゐた重要な特殊會社、銀行、統制會、營團などの重要人事については豫め內閣で協議することとした、また退職高級官吏が自治體、特殊會社または統制會などに就職の場合、高額所得者の恩給法上の處置については各般の見地より研究中である

二、銃後國民は現下の重大なる戰局にかんがみ、前線においておよばざる辛苦を重ね一切を捧げて米英擊碎を心として戰争下あらゆる困苦缺乏を克服して一路戰力增强に邁進しなければならぬ、この精神のもとに戰爭生活に徹することはこの大戰爭を戰ひ拔き、勝ち拔くために今後いよく重要性を增して參るので、政府としてもこの上とも諸君の御協力のもとにあらゆる方途を講じてゆく所存である、次にいふまでもなく各界が眞に戰爭遂行に相應しい體制をとりもつて戰力增强に寄與することは現下極めて重要なることで、この間に處し敬老精神はわが國三千年來の麗はしい家族制度に淵源する美德である、戰爭下傳統のこの美德の一段と昂揚せらるべき敬老精神もまた一段に尊重せらるべきことは當然であつてこの點についてはなんら心配しておらない

戰刑法八日成立

自然休會十一日から

【東京電話】六日衆議院は午後二時二分開會の本會議で戰力增强に關する決議を滿場一致可決して決戰議會の掉尾を飾り一旦休憩後、翼政側の戰刑法に對する態度決定を待つて是等四件の殘餘案を成立せしめ全議案を議了して七日より自然休會に入るものと期待されてゐたが、同日中に戰刑法の取扱に關する翼政側の態度はつひに決定を見ず、本會議は同六時十九分再開直に散會、戰刑案を八日に持越すこととなつた、しかして戰刑法は八日午後の本會議に上程八日中に原案通可決成立を告げこゝに衆議院は全議案を議了、九日より自然休會に入るものと見られる、一方貴族院は六日委員會で可決となつた市制中改正案ほか三件を九日の本會議に上程可決して成立、また都制案も大體九日の委員會で可決し十日本會議に上程可決成立せしめる運びとなり自然休會に入るのは十一日となろう

農民の信賴が先決

各道代表體驗を吐露

增產家族會議

六日京城府民館で小磯總督臨席、湯田農林局長統裁して開かれた府尹、郡守ら會同に於ける各道代表の體驗及び希望意見の發表要旨次の通り

權藤甲重氏（京畿道安城郡守）指導者の錬成が足らぬ、頭を戰時的に切り替へる必要があると思ふ、從來技術偏重であつた農民をして愉快に生業に就かせる如く指導者の錬成を末端まで徹底的に實行しなくてはならない、供出の强制はいかぬ、理解を持つて當れ、綿布の特配及び必需品などにも擴大して優先的に實施せよ

豐永鵬宇氏（咸北道鏡城郡守）指導者の錬成は、特にやらなければならない、精神の確立を主眼とした錬成である、邑、面職員などを適所招集して吏道の刷新につき督勵してゐるが、結果は大いによろしい、形式ではなく眞の指導でなければ農民を感得せしめ官に協力させることは出來ぬ

山崎守男氏（忠北道清州郡守）道幹部が供出について熱心を示してくれたが、これが總督の眞情であらうと思ふ、一般民衆にもこの親心を浸透させて協力させたい、郡守自ら陣頭指揮せぬといかぬ、農民の信賴感を高めて行くことが必要である

希望としては

一、出入耕作者に對する供出割當が對地割當であるため生じてゐる不合理を速かに是正されたい

一、肥料の割當を權力增加された早期に實施されたい

一、供出食糧の割當は出來る限り

金枝亨氏（咸南道安邊郡守）皇國農民道が確立し、時局認識が徹底さへすれば增產も供出も解決すると思ふ、實行に當つて重點をそこにおいたが、肥料、勞力問題もまづ不足なく解決し得たと思ふ

金村有薰氏（忠南道禮山郡守）指導者の修養錬成についても自信と自覺をもつて實踐展開すべきであると思ふ、理窟拔きでやつて行かう、農民には官を信賴させることが必要だ、そのためには指導者が親切第一で臨み農民の要求をよく聞いて眞に農民の立場から考へてやるのでなければならぬ、農民は複雜なことは嫌ひだから行事を整理減少させてほしい

高坂義男氏（江原道鐵原郡守）勞務者不足對策として婦人の共同作業の徹底を期すべきである、また、過不足關係をも調整することとである、一般的にいつて半島の婦人勞働の强化については一段の考慮が拂はれてよい

茂山春元氏（全北道益山郡守）增產の秘訣は全機關が協力一致することであると思ふ、知識階級も婦人も全部動員して成果をあげるべきである

金豐映燮氏（全南道海南郡守）供出割當には基本調査が必要である、調査が正しければ割當に對し農民は納得するのである、希望は水利施設を積極的にやつて貰ひたい

橋元正氏（平北道定州郡守）農民には雜穀を食はせ、增產の主點は米においてゐる、勞力、金肥の不足は婦人作業班の强化畑作勞働の畓作への轉換使用で調整して來てゐるが難しくなつて來た、燃料、畜力不足もともに飼料その他の轉換によるものでこれが調整に努めつゝあるが難點が多々ある

小山森正氏（慶北道尙州郡守）二五億萬貫の自給肥增產にわが道は成功しつゝある、農作物價格が一般物價に比し割安なる點は親心を示して欲しい、生產調査が戶別的にまで徹底し正確が期せられてゐるところは供出も巧く行つてゐる、昨年より郡の操作米を殖やしたことは農民の心理に好い結果を與へたと思ふ、慶北道は旱害を受けたが被害農民に食糧を配給した、これは農民は供出だけするものと決めてゐただけに農民も米を配給されるのであることが事實によつて一〇〇パーセントの供出率を上げた

松川明義氏（慶南道蔚山郡守）あらゆる代用食の利用研究に努め、增產と取組んでゐるこの旱害下に、報國の熱意に燃えて戰つてゐる樣をみて指導者さへ正しく指導すれば農民はついてくるものであると確信した

三井桂三郎氏（平南道平原郡守）農民が命令をきくかきかぬかは指導者が正しいか否かにある、米の値が低い、これの改善を希望する

長田基昌氏（黃海道延白郡守）農民の食糧消費量をも少し增加して貰ひたい、惡慣習といはれゝばそれ迄であるが一度にはなほらない生產統計は極力正確を期するべきものである

諸君の協力に俟つ

小磯總督、更に激勵

食糧增產强化に關し六日京城で開いた全鮮府尹、郡守、島司會同は總督の訓示について十三道代表から體驗及び希望意見が開陳され最後に出席全員を代表して大山剛氏（慶北道達城郡守）から答辭を陳べたのに對して總督は如何に立派な案、企畫と雖も眞に行政の末端にまで浸透しこれが運用せられるのでなければその效果は期し得ない、諸君食糧對策は重大である、諸君及びその管下吏僚の努力なくしては斷じてその成果を期し得ない、小磯は乏しくして企畫施策などにおいても必ずしも眞情に適せぬものがあるやも知れぬ、特に諸君の心からなる協力を切望する、さきの訓示と併せて諒恨せられることを期待すると人間小磯となつて最後の激勵をなした

雲南、怒江の敵潰滅

皇軍長驅ピモー占領

【ラングーン六日同盟】遠く雲南及びチンドウイン河に沿ふ北面地區に進擊を開始したわが精鋭部隊は險を冒する雲南山中、あるひは北ビルマの山嶮による敵を擊破しビルマルート再開を呼號して蠢動する敵重慶軍および英印軍に徹底的打擊を與へその策動を完封してゐる、すなはちさきに白銀の高黎貢山脈を突破して馬面關附近に重慶軍豫備隊二個師を捕捉殲滅した〇〇部隊はさらに所在の敵を擊破しつゝ進擊續行中であるが、一方ピモーに向け猛進擊中の部隊は〇〇日長驅ピモーを占領した、敵將蔣晋生は皇軍の進擊に恐れをなし早く逃走した模樣で、ピモーには敵が建築中であつた兵舍が未完成のまゝ殘され、また散亂した敵の器物はその周章狼狽ぶりを如實に示してゐた、ピモーよりトーゴーに到る中間山地は積雪三尺に及びしかも道路は荒廢し馱馬も通はぬ所であるが、わが將兵は士氣ますく旺盛で道路を急速に修理しつゝ勇躍進擊をつづけてゐる、またピモー占領部隊に呼應して進擊中の〇〇部隊は三月一日明光河谷において敵重慶軍第四師主力を攻擊、一部をもつて盤街附近を掃蕩中である、一方別働中の〇〇部隊は太平街、順江街を、また〇〇部隊は毛定街附近を掃蕩し、雲南怒江方面の敵は全く潰滅し去つた、北ビルマ方面においてはミツチナ東北方において英重慶軍の殘敵を猛攻、敗敵を急退して〇〇日トーゴーを占領、さらに一部はピモーに進擊、ピモー占領の部隊と握手を完成した、さらにミツチナ地方におけるわが部隊はソツプ・ズツプ北方十キロ附近の陣地に據り頑强に抵抗する敵を潰亂せしめ、ソツプ・ズツプ附近渡河點の橋梁を忽ち確保、他の部隊はミツチナ西北方ペオゴーの敵を擊退同地を占領した、またフゴーン方面においてはチンドウイン河上流マインカンを進發、マグイトーン東方山中において敵を擊退した〇〇部隊は引續きソーダム東方十キロ〇〇附において約五百の敵を攻擊交戰僅か一時間にしてこれを擊退した、かくてソツプ・ズツプおよびソーダムの兩方面よりするわが進攻作戰はチラツトの南ヒマラヤ山系に連なるナムキヤ山の麓フオートヘルツに蠢る英印軍に多大の脅威を與へてゐるが敵は最近頻りにミツチナ北方のわが輸送路の各要點に對し航空機をもつて攻擊し來り、地上および空中よりゲリラ的策動をみせてをりその都度わが斷乎たる鐵槌によりその企圖は全く封ぜられてゐる

議會展望

◇……總額三百六十億圓に達する臨時軍事費並に明年度豫算案を成立させ、更に戰力增强上最緊の戰時立法の大部分を通過成立せしめて現下時局に對處すべき國策は早くも鬪然する隙なき力强さを思はせてゐる、このときに際し衆議院では單に豫算案、法律案に協贊を與へたに止まらず今議會の最高目標ともいふべき戰力增强に關する決議案を六日の本會議に上程長老小泉又次郎氏が提案理由を說明したのち、滿場一致これに贊成政府、國民一丸となつて難局を突破しようといふ決戰議會に相應しい美しい情景を展開した

◇……決議の骨子は『政府は今議會の成果を最大限に活用して迅速適切に戰力增强の方途を講ずべく勇斷以て事に當れ』といふもので、等しく國民が政府に言はんとするところのものである、流石に長老の眞摯に背かず忠誠心に燃ゆる國民の熱意を傳へんとする小泉氏の熱辯は出席せる全大臣に異常な感銘を與へた、東條首相は特に發言して『政府は米英擊滅に燃えてゐる國民の忠誠心とその氣魄と信念とに深く信賴す』と滿腔の謝意を表し、同時に轉議の趣旨を體して官民一途大東亞十億民衆の陣頭に立つて聖戰完遂に邁進すべき決意を披瀝した

◇……貴族院は午前は市町村制午後は東京都制案の委員會審議が行はれたが、大した動きなく、これに反し衆議院は戰時刑事特別法改正案を繞つて依然論議沸騰、同案に對する態度決定の有志代議士會に於て津雲國利氏（東京）の除名決議が行はれるなど決戰議會の討議に相應しい眞摯な情景を見せてゐる

消息

◇今井達氏（東拓理事）七日朝歸城
◇中澤正治氏（滿拓理事）七日『ひかり』で北行
◇村井佐八氏（鹿島組京城支店長）十日發南鮮方面へ出張
◇山田完之助氏（鹿島組顧問）同上

社說 皇國農道に生き拔け

一

穀倉半島の名において食糧增產の絕對緊急性が本年度特に要請せられる所以に凡そ二つがある。その一つは一般的に戰時食糧の確保といふ帝國總力圈共通の基本的課題からであり、その二は昨年度における旱害による減收を本年度において一擧挽回すべき半島獨自の立場と使命における當面の課題からである。かくて半島は本年こそ官民一體の決死的精進によつて是が非でも食糧增產の實をあげねばならぬことはいふまでもなく、我々また屢々このことを繰返し繰返し强調して來たのであるが、この增產運動の本質からして、指導者層夫々の立場から別々に指導方針によつて散發的に運動を展開したのではその效果が著しく減殺さるべきことは言を俟たず、こゝに一貫せる方針と一貫せる增產への熱意を凝集せしめることの必要が要請されるのである。かゝる意味に於て總督が六日全鮮府尹、郡守、島司を招集して、食糧增產に關する會同を催したことは頗る意義あることゝ言はねばならぬ。我々はこの會同席上に於ける小磯總督の懇切を極めたる訓示の精神が必ずや出席せる第一線指導者の臟腑に徹し、食糧增產指導への熱意を愈よ湧きたゝしめたであらうことを信じその統制ある增產指導の結果が大增收となつて本年の出來秋を飾るであらうことに大なる期待を繫ぐものであるが、我々また總督のこの訓示が凡ての行政施策の根源であり國體の本義に徹することが即ち皇國の食糧基地的使命達成の根幹であることを強調したのである。これらの本府の施策、方針は一々尤も至極なものであり、

二

總督はこの訓示において食糧增產の前提となるべき皇國農民道の把握その他の精神運動の方向を近代戰、大東亞戰爭下における朝鮮の地位並に使命といつた基本的な問題より說き起し、戰爭完遂のために官民渾然一體となつて穀倉朝鮮として國家的使命達成に邁進すべきことを要請した。總督訓示をここに再び敷衍することの必要を認めないが、ただその間特に注意を引ける一二の點を指摘强調して置き度い。

三

卽ち總督は第一に增產食糧の中における雜穀の比重極めて大なることを指摘『甘藷の三百貫は、カロリー量において玄米三石に匹敵する』しかも『甘藷三百貫の反當收量は容易に得られても反當三石の玄米の收穫は却て困難である』と專門的な意見を披瀝して、雜穀增產の緊急性を說いてゐるとは大いに示唆に富む意見といはねばならぬ。その他食糧作物と纖維作物との競合問題に觸れ、自給肥料の確保と有畜農業への轉換問題を取りあげ農業技術の根本的な核心を衝いてゐることなどは、極めて大なる農村再編成の根幹にまで觸及してゐることゝ共に留意せる半島農業の進路をあますところなく示したものといふべきであらう。なほ本訓示に於いて、食糧增產、農業報國運動に對し本年より國民學校その他全部の學校を動員、積極的に參加せしめる方針であることが明かにされたが、この戰爭が總力戰なる意味に於いて、全部の學校を國家が要請する最大の國策に關係せしめることは自體が時局の重大性と戰爭の決戰的樣相を物語るものであつて、もとより當然とはいひながら、總督府の食糧增產に對する熾烈なる熱意がこゝにも汲みとることが出來て、我々の心を强く感ずるところである。最後に國體の本義に透徹することが食糧增產の根幹であること及びこれへの自己錬成が本問題解決の鍵を握るものであることを總督は重ねて强調してゐるがこの二つのことは正しく食糧增產運動の最後の結論といつてよく、第一線指導者はこの總督の意を十二分に理解し、この大方針を誤りなく運用することにより必ずや大增產の實をあぐるやう新たなる決意の下に一意邁進すべきこと希求して已まない。

功勞者を御表彰

結核豫防に畏き思召し

皇后陛下

【東京電話】畏くも皇后陛下におかせられては常に民草の上に數々の御仁慈を垂れさせ給ふと承るが、殊に結核豫防事業には並々ならぬ御心を注がせられ六日地久の佳節に當り、畏き思召をもつて、結核豫防事業の第一線に献身的努力をつゞける功勞者―第一生命會長矢野恒太氏をはじめ十一名に對し特に御内帑金下賜の御沙汰あらせられ、御親しく御表彰遊ばされた、御實より表彰の御沙汰を拜するは今回がはじめてのことであるが、有難き御内意を拜し武井厚生次官が六日午前九時十分宮内省に出頭、皇后宮職において廣幡大夫を經て賜金の傳達をうけ、恐召に恐懼感激しつゝ退出した、畏くも皇后陛下には結核豫防事業には特に御心を注がせ給ひ御終生の御事業とせられる思召と拜承するは畏き極みであるが、昭和十四年四月設備費の一助として、御内帑金五十萬圓と有難き令旨を賜ひ、翌十五年には同事業の御奨勵として年々五萬圓づゝ十箇年間下賜の御沙汰あらせられ、その御内帑金は御内廷の諸費を御節約あらせられたもので財團法人結核豫防會もこの賜金を基として創設されたもので、國民の體位向上に寄せさせ給ふ御心のほどは民草感げて恐懼し奉るところである、なほ光榮の御表彰に恐懼感激の功勞者は左の十一氏である

一、御紋附木杯一箇
一、金一封宛
東京第一生命會長　矢野　恒太
　同醫師　田澤　鐐二
一、白羽二重一疋
一、金一封宛
東京養生院副院長　緒方絡次郎
同　同看護婦　紅林　リン
神奈川南湖院々長　高田　畊安
同　同副長　河野モモノ
同　同看護長　永井　富
同　恵風園療養所顧問醫師　中村春次郎
同杏雲堂保養所長　永野　重業
東京日十字療養所長　村尾　圭介
同白十字相談所長　林　止

廣幡大夫謹話

皇后陛下におかせられましては常に　天皇陛下の大御心に副ひ奉るべく數々の御仁慈を垂れさせ給ふのでありますが、殊に結核の豫防事業に對しましては一入御心を注がせられ、さきには諸費御節約のうへ財團法人結核豫防會の創設を促し給ひ、かつ同會へ年々御手許金を下賜あらせられつゝありますが、さらに今回全國の結核豫防功勞者に對し、それらの人々の多年にわたる献身的の努力に痛く御感あらせられ、臨時御表彰の御内意にわたらせられ、本日の佳辰に際して賜物あらせらるべき旨御沙汰あらせられました御趣旨のほど洵に感激に堪へない次第であります

厚生大臣謹話

畏くも　皇后陛下におかせられましては本日結核豫防事業の功勞者に對し御下賜品を賜り、有難き思召しのほど洵に恐懼感激の至りであります　陛下におかせられましては夙に結核豫防事業に對して殊のほか御心を注がせ給ひ、さきに優渥なる令旨を賜ひ、また多額の御内帑を賜遊ばされたのみならず、ほかにも種々温き御沙汰を給うたのでありまして毎々事業の今日あるは、一に陛下の御仁慈の賜であるのであります。政府におきましても結核豫防事業のいよいよ重要性を加へつゝあるに鑑み、この際において結核豫防撲滅に一致し、結核豫防撲滅の確固たる國家意思を確立し、つゝあるに當りますが、この際いよいよ粉骨碎身所期の目的が完遂に邁進しつゝあることを期する次第であります

決戰の春を飾る

全鮮青訓生武裝自轉車部隊錬成大會

けふ晴れの開會式

戰捷決戰の春とゝもに迎へる青年錬成の勇壯な體錬祭典―明年に迫つた半島待望の徴兵制實施を記念する一府十三道の若き精鋭を網羅しての本社並に朝鮮青年團、朝鮮體育振興會共催の全鮮青年訓練所生徒『聖地扶餘』『朝鮮神宮』間二百四十七キロ武裝自轉車部隊錬成大會』は愈よけふ七日から陸軍記念日まで四日間に亘つて火を吹く熱鬪を繰展げる、行事第一日の七日は選手各隊續々と聖地扶餘に集合、午後三時半山本廳開知事臨席のもとに盛大なる開會式を擧行する、國民儀禮のゝち本社高宮社長の式辭あり學務局長、軍報道部長はじめ各方面から寄せられた祝辭のゝち選士隊員代表から質義敢鬪の誓ひを宣し、それより修錬所に第一日、第二日を講話、勤勞奉仕、史跡見學等の修養に過し愈よ第三日の九日扶餘を出發第三日の稷天安行まで突破、第四日の十日は正午までに朝鮮神宮大鳥居の決勝點目指して猛進し南方戰野に敢鬪し戰果をあげてゐる自轉車部隊の勞苦を偲ぶのである、この壯擧に出場の榮光を擔つた百十七名の選士は我等が道の名譽を賭けて、扶餘神宮―朝鮮神宮の兩聖域を結ぶ坦々たる國道に奮風を截つて馳驅する勇姿を見んものと沿道は早くも湧きに湧き立つてゐる

ず總體的生活をしてゐる有閑徒食の青年をして時局認識の透徹を圖り、大東亞建設の一員としての誇りを堅持せしめて生擬陣に進軍さ

張り切る聖地扶餘

町をあげて大會協贊

【扶餘にて大山特派員發】迫つて長本社原田營業局長、大會錬成部しやまむの旗印の下、自轉車部隊委員富澤少尉ら大會役員も六日既の武裝も頼々しく徴兵制に備へるに入扶、地元の扶餘郡廳、警察、警本社及び朝鮮青年團、朝鮮體育振防團、學校、青年團を先頭に町をあ興會共同主催になる全鮮青年訓練げて大會翼贊に立上り式典準備に所生徒扶餘―朝鮮神宮間自轉車部沿道の清掃また競爭出發點の整つて修錬講話で道義朝鮮確立への精神を體得してのち監督打合會に移り、次いで夜の錬成行事で第一日の日程を終ることゝなつてゐる

總督訓示拜聽の感銘をきく

實踐あるのみ

身を挺して邁進せん

『諸君は皇道の行者である、人を動かすものは強權に非ずして實に誠である、日本臣道を通じて皇民たるの實踐を把握する時にこそ食糧確保は斷じてなされるのだ』と六日の農業報國運動強化の全鮮府尹郡守島司會同に徹意を冒して壇上に掲んだ小磯總督の一時間に亘る訓示は、行政第一線の陣頭指揮者である全鮮の府尹郡守島司に、多大の感銘と異常な決意を與へた

慶北達城郡守　大山　剛氏

總督閣下の時局に對する熱意が如何に熾烈なものであるかを知つて全く感動しました、食糧增産と官民錬成とこの二つながら私達に與へられた最大の責務完遂のため必死の努力を拂ひ、決戰の現段階に際し責任の深さを強く感じた、達城郡は慶北中でも最も旱害のひどい所であつたが、自給自足の計畫を樹てゝゐる、民衆の食糧に對する考へもなかなくよく、腹一杯食べずとも均等に食べられるやう工夫努力してゐる、麥の出來るまでの平準だといふので農民も決しに遊びない、答辭を述べた大山剛氏（慶北達城郡守）は『郡守生活廿年になりますが未だかつて今日ほどの感激を受けたことがありません、責任の重大さを痛感しました』と緊張してゐたが、次に各地の府尹、郡守から總督訓示拜聽の感銘ぶりをきく

全北金堤郡守　林

て不平をいはない、に皇國農道確立のためたい
總督閣下御着任以來に透徹せよとの御訓示ましたが、今日かゝる

凱歌高し叺增産

【昆陽】戰時下叺の需要が激增するに加へこれが需給の圓滑化を期するべく郡當局では從來の如く農家の副業的に生産することを許さず積極的の增産指導に乘り出してゐるが
昆陽面松亭部落では當局の指示方針を絕對信賴して徹底的協力をなし常に各種供出に一番乘りの凱歌をあげて各方面から稱讚を受けてゐる

青年挺身隊結成

【慶山】決戰下未だ時局を認識せ

せるため全鮮に魁けて山口馬山署長な府聯盟傘下の特殊團體として青年挺身隊を結成することになつたこの挺身隊は、教養、社會、錬成指導の各部門に亘り部制を設け、部長級には思想穩固の知識青年に依囑して遊閑青年の指導に當らしめることになつてゐるが、同隊結團式は去る廿八日午前十時から警察署廣場で、家本府尹ほか軍官民多數參列のもとに嚴肅なる結團式を終了して青年の指導に強力なる發足を遂げることになつた

古錢あり、鐵門あり、六百點

龍山和洋食料品組合から獻納

京城漢江通一ノ二〇龍山和洋食料品組合の役員一同は五日早朝から組合員の自宅を一軒々々訪ねて鐵類の回收を行つたが集つたわく藥罐、鐵門、洗面器、眞鍮食器、古錢、一錢銅貨六千八十四枚その他六百點の多數にのぼつたので、組合長伊藤榮治さん他役員六名はこれをトラックに積み込んで六日威勢よく朝鮮軍愛國部に持ち込み組合員の氣持です、これで憎い米英を撃滅する戰車や砲彈を作つて下さい

清和女塾からも

と献納し受納の軍部をいたく感激させた
綠旗聯盟經營の清和女塾では銅や眞鍮製のお茶の道具などを取纏め三輪車に積込み六日海軍武官府を訪れ『どうか魚雷として撃米英撃滅のお役に立てゝ下さい』と献納した

演題　大東亞戰爭の性格
講師　朝鮮軍報道部陸軍大尉　中川五十治氏
第三十八回陸軍記念日　米英擊滅大講演會
三月十日夜六時半　京城府民館大講堂に於て
映畫　日本ニュース（最新版）　昭和十九年、空の神兵
入場無料　但し子供は御斷り
主催　京城日報社、京城府、鄕軍京城府聯合分會
協贊　朝鮮映畫

戰ふ世界の女（下）

今や生産戰の花形

半島女性よ斷じて他國に勝て

京城師團報道部　陸軍中佐　江上　守彦

小銃一挺のため十八人、飛機一挺に廿人の銃後の生産人を要する現代戰において各國最大限の動員を下したるため軍需工業生産增強のため、各國が如何に血みどろの戰ひをなしつゝあるかその戰ふ女の一部を紹介するのもまた徒爾ではなかららう

米　日本一に對して十の消耗戰を覺悟して戰ふと豪語する米國が何としても困るのは人的問題である、本年度兵力九百萬、軍需勞働者二千萬の計畫に依る兵力七百萬、勞働者一千三百萬合計二千萬の增加が必要である、これがため極制勞働時間の延長、失業者轉業者の徴用等に色々苦心してゐるが、なほ五百五十萬人の勞働不足に對して婦人を動員する以外に方法なく現在までに三百五十萬人が工業方面に千四百萬人が農業方面に從事してゐるが五百萬人を更に工業方面に動員する計畫を進めてゐる、此の状況で進むと十八歲から四十四歲迄の主婦の中四人又は三人に一人は戰時產業に從事することにならう

英　第一次歐洲戰爭で苦しい經驗を重ねた英國は此の方面では大先生であるが英國の人的資源は已に飽和點に達して動員の餘地なく能率第一主義で進み戰前の二十餘以上の能率をあげて居るといはれる、動き得る英國婦人一千百萬（十六歲から四十一歲の登錄人員七百萬）人の中現在の婦人勞働者は五百五十萬の多くが淑女の體面をかなぐり捨て喜んで犧牲を甘受し血の滲む樣な努力を續けドイツの空爆下生產戰に獻身してゐる

獨　失業者の救濟の爲戰前叫ばれた『働く婦人は家庭に還れ』の

り昨年婦人勞働者は一千七百萬突破し全勞働者の四七％に人が生產に從事することと

スローガンは開戰と共に『男は戰線へ女は生產へ』のスローガンに置き換へられたのは當然な

撃ちてし止まむ

豪華『大陸軍展』幕開く

府廳幹部夫人が汗の勤勞へ

健兵強兵篇

生菓第二陣

開會、先づ捧げる皇軍への感謝

第一日の京畿道會

昭和十八年度一般會計總豫算二千六百八十七萬六千餘圓を審議する第十四回京畿道會は六日道廳第一會議室において高知事議長の下、山本内務、松本産業、原田警察各部長以下參與員、卅九道會議員臨席の下に開會した、これより先午前九時議員一同は朝鮮神宮に參拜、皇軍の武運長久を祈願し、併せて道政の全き遂行を誓つて會場に臨んだ、定刻午前十時國民儀禮あつてのち高知事議長席に着き開會を宣し、第十三回道會において決議した、支那派遣軍に關する感謝電につき畑總司令官より返電あり、たる旨を述べ、府民館中講堂における全鮮府尹郡守會議席上よりの小磯總督訓示中繼のため同二十分休憩に入る、同十一時五十分再會高知事の説明あり

▲皇軍感謝決議文（提案者宮田議員）▲義務教育制度並に徴兵制度實施に對する感謝文（提案者文村議員）の緊急動議の提出あり多數贊成あつて動議成立提案者より提案理由を述べれば滿場拍手をもつて可決し、終つて第一日議事日程の豫算概況説明あり午後一時第一日程を終つた

家庭燃料 無煙炭の焚き方 2

京城鑛專校長 大森貫一

次は第二の考ふべき點である燃料を完全に無駄なく燃燒せしめる工夫についてであります、無煙炭は薪材や木炭、有煙炭や瓦斯と較べて、燃えにくひから使ふに不便であり、完全に燃燒し難くて立ち消えする惧れがあるといふ點から從來、外の燃料を使ひ馴れて來た家庭においては一般に不評判であります、これは無煙炭の缺點として考へられるかも知れませんが實はこれこそ無煙炭の特徴であり他の燃料よりも遙に優れてゐる點なのであります、一口に申しますと、燃え易い燃料は發熱成分の主體である炭素が無煙炭と較べてズツト少いのであります、換言すれば、無煙炭は炭素を含むこと一番多く、發熱成分が他の燃料よりも多いので、それがために却つて、最初の燃やし初めが困難となるのであります、上手に燃やせば、無煙炭ほど熱を攝る目的からいへば適切な、最も安價なる燃料は無いのであります、家庭の主婦がこの大東亞決戰下、まだまだ從來の習慣に捉はれて、品不足の薪材や木炭や有煙炭にあこがれて買ひ漁るならば『戰時體制の頭に切り換へが出來てゐない證據だ』といはれても致し方が無いのであります

無煙炭の燃し方

無煙炭はかくの如く發熱成分の主體である炭素が一番多く含まれてをり、それがために燃やす時、火着けに苦勞するのでありますからこれを燃え易いやうに工夫すればよいのであります、燃料が燃燒するとは、まづ火が着く、すなはち着火し、それが繼續する現象であります、着火するためには燃料を着火溫度まで熱しなければならぬのでありまして、その溫度に成るまでは燃料に熱を與へることが絶對に必要であります、着火點に達するまでの熱量を與へなければ燃料は火が着きませぬし、また火が着いてもその溫度を保つに必要な熱を燃料がもつてゐない場合には着火が繼續する、すなはち燃燒するといふ状態が續かないで立ち消えとなるのであります、ところが燃料は着火さへすれば發熱しますからその熱で大抵の燃料なら燃え續けて立ち消えしないのでありますが、無煙炭は着火點が高いので、それだけ澤山の熱を與へなくては火が着きませんし、火が着いてもまた相當多量の熱を持たないと立ち消えしてしまつて、燃燒を繼續しませんから、無煙炭を燃燒せしめる場合には、無煙炭が着火して發生した熱を出來るだけ外部に逃がさぬやうにして無煙炭自身に貯へさすやうにしなければ燃燒が繼續しないのであります、ここが薪材や有煙炭の燃燒と違ふ點でありまして、換言すれば無煙炭の燃燒は與へた熱で徐々に繼續するといふ特徴があるのであります、かゝる無煙炭の特徴から考へて瓦斯や薪材に火を着けるには燐寸一本でゝも出來ますけれども、無煙炭を火着けする場合には、澤山の火種、すなはち焚附けが澤山要ることになるのであります、しかして一たび着火して發熱しても、その熱を出來るだけ外部へ逃がさぬやうに保溫材で圍むことが燃燒を繼續させるためには心得ねばならぬ點であります

和の中に電撃執務…軍司令部のタイプ競技

『和のなかにも電撃的執務』――これは板垣軍司令官の部下に對する訓示の一節であるが軍事機密や重要な秘扱ひ書類をカチ／＼と纖手で叩き拔く朝鮮軍司令部勤務のタイピスト孃の事務能率向上を目指して第一回部内タイプライター競技會が、六日午後四時半から約卅分に亘つて高等官食堂を會場に開催された、競技に先立つて朝生高級副官から職域勵精に對する訓話あつて競技に移つた、パチ／＼とまるで機銃の掃射にも似た早業で叩きあげてゆく文書、輪廓を崩さず誤字、脱字もなく好成果を收めて第一回競技會を終了した、成績の優れた者は第五位まで審査の結果八日表彰する【寫眞＝軍司令部のタイプ競技】

音頭は課長さん

道警察部の海軍體操

汗の"初穂"を母校へ

京城工業卒業生の麗しい母校愛

八科綜合の大規模をもつ京城工業では職力増強に直にお役に立つ立派な工業技術者を養成しようと上山校長以下百餘名の職員が『心は一つ』と技術の錬磨と心身の鍛錬に全魂を打ち込み、毎年五百餘名の工業尖兵を産業戦線へ送り出し、若き産業戦士は母校の榮譽を擔ひ恩師への報恩を誓つてゐるがこゝに同校卒業生が初めての給料をお初穂として恩師に贈つた純情美談は職に本紙に紹介したがその後も師弟愛の純情物語りは續いてゐる

◇…同校應用化學科を昨年の春卒業して鎮南浦の某工場に就職した中村京一君は僅かな給料から合宿費、積立貯金其他を差引いた殘額十九圓二十錢をそつくり實父中村京太郎氏を經て『同卒このお初穂を母校の神棚にお供へ下さい』と上山校長宛に贈つた

◇…同じく應用化學の昨年卒業生和田末郎君は朝鮮紡織に就職したが、鍛造部の○子先生に『仕事は半人前ですが一人前の俸給を戴きましたので僅かではありますが武道大會のとき學友諸君への賞品代にでも』との手紙に添へ金十圓を

◇…鑛山科卒業で咸鏡無煙炭に就職した山本光明君は上山校長宛に『在學中の御教訓は一日も忘れることなく肝に銘じて天與の採炭戦士として母校の名を傷けない覺悟で働いてゐます、この度はじめて汗の結晶とも申すべき俸給を戴きましたが、その嬉しさは到底筆舌では盡されません、お初穂として贈呈致します』との手紙と金十圓を贈つた

◇…同じく鑛山科を了へ中川寄陽鑛山に就職の中塚正義君は『最初のことで手をふるはせながら給料を貰つたときの氣持はなんともいはれない感激にあふれました、これひとへに君國のお蔭父母並に諸先生のお蔭だと泣いて喜びました、同封の爲替は寸志で御座いますが鑛山科實習の一部にも』との手紙に『國の爲汗を流した初穂かな今日も勞めん明日も勵まん』の和歌まで作つて金十圓を贈つた

以上つぎ／＼に贈られる愛弟子の初穂に泣けた上山校長は若き戦士の純情に副はしめようと贈られた金子を本社永登浦支局を通じて國防献金した

賞金や手當をそつくり

遺家族援護へ温い献金數々

◇雛祭遊戯會 若草町西本願寺經營の龍谷幼稚園では『雛祭遊戯會』を七日午後一時から新堂町龍谷高女講堂で開催する

土谷保彦氏

貯蓄銀行監督課長代理、土谷保彦氏は京城竹添町の自宅で病氣療養中六日午前一時十分逝去、享年卅六、告別式は七日午後四時昭和通護國寺で執行

同氏は山形縣生れ、豫備陸軍中尉、京城中學、京城高商の出身支那事變勃發と共に北支に出征各地に奮戦三たび重傷を負つて歸還し、さき頃の論功行賞で勲甲の破格の功四級を賜つた、家庭には兩親、よし子夫人、三児がある

半島縮刷版

重油以上"松炭油"

燃料にお山の幸を總動員

……八十萬圓で兼二浦邑民が十萬圓、黄州邑民が三萬圓をそれ／＼負擔、日鐵會社が五十二萬圓を引受けることになり、あと十五萬圓は道の起債を待つ筈である

叺へ平康郡民の熱

ラジオ 7日

朝 ▲七・〇〇 1『撃ちてし止まむ』衆議院議員法博 清瀬一郎 2朗讀（錄音）▲八・三〇 道義の話（鮮語）明倫専門教授 安寅植（成興）報恩感謝の生活、咸南商業専修學校長 陽村鉦宜 ▲九・〇〇 勝利の記録―第六十四輯―（錄音）▲九・三〇 オルガン獨奏 歌劇『ファウスト』兵士の合唱ほか 米山輝男 ▲一〇・〇〇 週間錄音

晝 ▲〇・三〇 1バイオリン獨奏 ブルツフ作曲『祈り』ほか 多久興 2ピアノ獨奏 ブラームス作曲『ハンガリー舞曲第七番』ほか 高橋賢子 ▲一・〇〇 1舞台中繼―明治座より―『寶の數』中村歌右衛門、山岸しづ江ほか 2琵琶『九連城』安田希山 ▲三・三〇 日本放送吟、大會實況 1日比谷公會堂より

夜 六・〇〇 1シンプソン 2歌のけいこ『少年工』（指導）外山國彦 ▲六・三〇 軍歌聯曲『日本陸軍』京城放送合唱團 ▲七・二〇 週間戰局 ▲八・〇〇 前線へ送る夕―兩國公會堂より中繼―1講談『名醫と名優』大島伯鶴 2皇國歌謠（イ）『海の進軍』ほか楠木繁夫（ロ）『坊やも軍人』ほか松島詩子（ハ）『誰か故郷を思はざる』ほか霧島昇 ▲九・〇〇（鮮語）1二人漫談 2南鮮民謠 3放送小説『子供部隊』

大いなる祭【85】

中野實（作） 三芳悌吉（繪）

同志の歌（四）

大本營發表――（昭和十七年二月一日午後六時）マレー半島を進撃中なる帝國陸軍部隊は昨一月卅一日夕その先鋒を以てシンガポール對岸に進出せり。上陸以來五十五日、踏破行程約千百キロ、舟艇機動約六百五十キロ、橋梁修理約二百五十、この間主力の交戰實に九十二回に及べり。その戰果の主なるもの左の如し。

鹵獲品（破壞せるものを含む）火砲約三百卅門、機關銃約五百五十挺、戰車（装甲車を含む）約二百五十輛、自動車約三千六百輛、糧秣燃料軍自活に十分なる量、俘虜約八千、遺棄死體約五千

マレー半島における怒濤の如き皇軍の進撃が、廣東市民に與へた影響は大きかつた。殊にバイヤス灣上陸以來、廣東の落城、つゞいて大東亞戰爭後、香港の陥落を目のあたり見せつけられた南支那の中國人にとつて、この事實は最早信ずべからざる奇蹟が起つたといふやうな感じられ方ではなくして當然あり得べき既定の事實のやうに、驚倒は讃嘆の聲に變り、皇軍への信頼感はたかまつた。沙面の英國租界にあつて敵然とふんぞり返つてゐたイギリス人が、屠場にひかれる羊の如くぞろ／＼とひきずられて行つた十二月八日の朝の痛快な思ひ出が、今もまだ市民の腦に蘇へつて來て、ジョホール・パール突入のこの朝の新聞は、何處の茶樓でも酒樓でも、興ひ合ひの騒ぎだつた。

『えらいもんぢやあないか。えゝ？日本軍の向ふところ敵はないんだから』

海珠橋を河南に渡つたすぐそばの薄暗い茶樓で、勞働者らしい男が、鍋で野菜をいためてゐる髭きすの亭主に話しかけた。

『まつたくだ。中國軍がだらしがなくて愛想をつかしてゐたが、英軍もこんなにだらしなく敗けるとは思つてゐなかつたよ』

亭主もすぐ合槌をうつた。

『いゝ氣味だ。しかし、いつたい中國軍と英軍とどつちが弱いんだらうな』

『そりやあお前さん、中國軍の方が強いに極つてゐるよ』

『さうかな』

『さうかなつたつて、お前さん、中國には四億六千萬人といふ人間があるんだから、武器さへいゝのを持つてゐりやあ、中國軍だつてさうは敗けやあしないよ』

『さういふけれど、おれは中國軍は嘘をつくから嫌ひだ』

『どうして』

『だつてよ。日本軍がバイヤス灣へ上つてこの廣東へ攻めて來た時にもよ、みんな心配するな。日本軍が攻めて來たといふのは嘘で、日本軍の服裝をしてゐる中國の兵隊だ。蔣介石に反對する奴をかたつぱしから捕縛するために、わざわざ日本軍の兵隊に化けさせて、この廣東へ入らせてクーデターをやるんだなんて出鱈目いふもんだから、こつちも眞にうけて、味方の兵隊だとばかり思つてゐたら、それがほんものの日本軍で、おらあびつくりしたことがあるよ』

『はつゝゝゝ』

亭主が面白さうに笑つてゐるうしろから、

『勘定』

と云つて軍票を出し、剰錢をとつてその茶樓から、海珠橋へさしかゝつたのは、美々だつた。丁度、橋のまん中に來た時だつた。

『おい、美々ちやあないか』

と彼女を呼んだ者がある。